

## 第6回 第二期武蔵野市スポーツ振興計画（仮称）策定委員会 議事録

日 時	令和3年10月6日（水）18:00～20:10
場 所	武蔵野市役所東棟6階601会議室
出席者	【委 員】◎松尾哲矢委員、○石黒えみ委員、秋本清委員、櫻井昭委員、 鈴木健太郎委員、河合雅彦委員、藤田勝敏委員、鎚邦宏委員、 多田てい子委員、前川洋司委員、新野雅史委員、古賀祐輝委員、 田中博徳委員、樋爪泰平委員 ※◎委員長、○副委員長 【事務局】武蔵野市教育委員会生涯学習スポーツ課 【事業者】株式会社創建（計画策定支援事業者）
欠席者	0名
傍聴者	1名
次 第	1. 開会 2. 議事 （1）中間のまとめ（案） （2）プールの今後のあり方について （3）その他 3. 事務局連絡事項
資 料	資料1 中間のまとめ（案） 資料2 プールの今後のあり方について

## 1. 開会

事務局より、開会の挨拶を行った。

## 2. 議事

### (1) 中間のまとめ (案)

事務局により、資料1に基づいて説明を行った。

委員長        まずは私から1点だけ。p14「2. これまでの取組の実績と評価」について、今のままの見出しにすると、具体的に計画の達成状況を評価したような印象を受けてしまい、さらに後半に別で課題を抽出している内容があるため、評価という言葉を使うかどうか、書きぶりを検討していただいた方が良いと思う。

委員            p4「2. 計画の位置付け」の図中にある分野ごとのマスタープランについて、「武蔵野市公共施設等総合管理計画」の表記が正しいと思うので修正していただきたい。内容は網羅されていると思う。

事務局        正しい表記に修正する。

委員            事前に配布されたため一通り目を通した。全体的にこの内容で良いと考えている。

委員            p48「③全ての市民へのスポーツに親しむ機会の提供」について、対象を限定している①及び②からの繋がりを考えると、③で「全ての市民」と表現すると混乱するのではないか。別の表現に変え、内容に多世代がともにできるスポーツイベントが含まれていると良いと考える。

委員            p47「①基本的な運動動作と体力の向上のための取組」について、「生涯に渡って」ではなく「生涯にわたって」とひらがなにすべきである。「③日頃の練習や活動の成果を披露する場づくり」について、「自信を身に付ける」ではなく「自信をつける」が一般的と思われる。p55「②子どもがスポーツボランティアを経験できる機会の提供」について、「知識・意識・ノウハウ」ではなく、「知識・意識・関わり方」などの方がより適切と思う。

委員            p52「②障害者がスポーツに取り組みやすい施設整備の充実」には「障害のある人」となっており、p58「②プールの今後のあり方」には「障害のある方」となっている。これらの表現は統一された方が良いだろう。p53「(3) 障害への理解を深めるスポーツの推進」について、「障害のある人となない人」ではなく「障害の有無に関わらず」でも良いのではないか。

委員            p57「(2) スポーツ施設の整備」について、これまでの議論では主に総合体育館とプールに焦点が当たっていたが、10年間の計画ということを考えると、その他のスポーツ施設をはじめ、学校体育施設や民間スポーツ施設など、市全体のスポーツ施設の整備についても取り扱っていただきたい。

事務局        学校施設の整備については、別途「武蔵野市学校施設整備基本計画」により検討を進めている。その他のスポーツ施設の整備や、民間スポーツ施設との連携についてはご意見をいただきたい。

委員            武蔵野陸上競技場の稼働率が低い人工芝にしてはどうかと提案したところである。また、学校運動部活動を民間のグラウンドで行うなどといった連携が図られると良いのではないか。

事務局        p54「③持続可能な部活動の実施に向けた検討」にあるように、本市の第三期武蔵野市学

校教育計画と連携しながら今後検討していきたいと考えている。

委員長 利用者側からすると、スポーツ施設の所有者は公民どちらでもよくて、先程発言された委員の意見の趣旨としては、スポーツを実施できる場所として公共スポーツ施設と民間スポーツ施設とをまとめて整理・記載してみてもどうかとの指摘と思う。パブコメで提示する中間報告に反映するかどうかは別として、最終的な計画書にどのように反映するのか検討していただきたい。

委員 p54「③持続可能な部活動の実施に向けた検討」の中で連携する趣旨を記載することが適切と考える。また、p46「3. 計画期間の目標」について、この資料で提示している指標と重点施策とをリンクさせて委員のみなさまにはご検討いただきたい。p14「2. これまでの取組の実績と評価」について、ここでは課題につなげていくために必要な内容ではあるものの、あくまでも要旨に留めておき、詳細な内容をすでに別途取りまとめているので、それを別途ホームページに掲載し、そのリンクを計画に記載するというのも一つの選択肢と考えている。

委員長 確かにそのような対応でも良いと思う。

委員 p16「(10) 障害者スポーツの推進」について、「障害者アスリート」ではなく「パラアスリート」と表現できないか。p56「③スポーツ環境の充実に向けた民間企業等との連携強化」について、連携という表現が良いものか悩ましいところである。民間スポーツクラブでは、会員に継続を促すために様々な取組を行っており、そのような方向性があることから、行政はきっかけづくりの機会の提供、民間企業は継続的な場を提供するというすみ分けに留意した取組が展開されると良いと考える。なかなか難しいことかもしれないが。

委員 私も「連携」という言葉を捉える上で、漠然とわかったような気がしていたが、具体的に検討し始めると確かに難しく、ご指摘の点は大きな課題となっている。この計画に盛り込むことは難しいかもしれないが、継続的な課題として検討していくと良いのではないか。

委員 p50「②デジタルを活用したスポーツの推進」について、文末が「研究します」となっているが、ややハードルの高い表現という印象を受ける。もう少し猶予のある表現に修正しても良いと思う。また、p57「①武蔵野総合体育館の大規模改修工事」について、p58「②プールの今後のあり方」と同様に現状と課題があっても良いと思う。p61「V 武蔵野市の特性を生かしたスポーツ文化の醸成」について、武蔵野市らしさとしてこれまで議論してきたコンパクトシティなどの特性や良さを盛り込めると良いと思うが、妙案は今のところないため難しいかもしれない。

事務局 武蔵野総合体育館の大規模改修工事については、基本計画や設計の段階で別途パブリックコメントの募集を行うため、現在の記載内容となっている。p61については、確かにご指摘の点を盛り込みたい気持ちはあるものの、全体的に武蔵野市らしさを盛り込んだ内容としてお示ししており、単体で書き込み過ぎてしまうと記載ボリュームが多くなってしまふことから、パブコメの意見を踏まえて記載内容を検討・充実させていただきたい。

委員 p46「3. 計画期間の目標」について、根拠のない数値目標を掲げていることに違和感を覚えている。民間企業出身の立場からすると、この数値目標の立て方や数値そのものに疑問を感じており、行政の目標の掲げ方との温度差を感じている。

委員 以前からスポーツ実施に向けた行動変容を促そうという流れがあったと思う。この方向

性を実現するためには、民間企業との連携が効果的と考えている。民間企業はいかに会員を辞めさせないかということ意識している。また、東京 2020 大会のレガシーについて、オリンピック・パラリンピックの開催意義は日本の文化を発信することであって、今回の大会でその意義があったのかという疑問である。レガシーがあったかのような文章となっているため、オリンピック・パラリンピックを開催し、課題が残ったという持っていきかたでも良いのではないか。コロナ禍で開催したオリンピック・パラリンピックと課題提示しても良いくらいである。

委員 p50「(4) 新たなスポーツとの出会いの創出」について、年に1度の催し物などだけではなく、普段から新しいスポーツに触れる機会があると言えると思う。それを見た人がやってみようという気持ちになると良い。

副委員長 p48「(2) 多様な主体が楽しむスポーツの推進」について、子育て世代・働き盛り世代、高齢者・女性、全ての市民という構成となっているが、対象を限定しているフレーズがあるにも関わらず、全ての市民という言葉が最後にくるため、どの対象を重点にしたいのか混乱を招くのではないか。「③全ての市民へのスポーツに親しむ機会の提供」という趣旨を踏まえ、「多世代の市民」に変更しても良いのではないか。p60「③その他の施設」について、重点施策とするにはインパクトが小さいかもしれない。今存在する施設名とそうでないものを区別するとわかりやすいと思う。p61「③応援モラルの定着を図るための取組」について、この取組自体は他自治体にはあまりない先駆けのものとして良いと思うが、現在の文章をみると、武蔵野市で過去に何か問題があったかのように受け取られてしまうため、武蔵野市が先陣を切って取り組んでいくということがポジティブに伝わるように修正してみてもいいか。

委員長 レガシーについては、確かにすでにあるかのように記載するのは止めた方が良くも思えない。p46「3. 計画期間の目標」について、現状値はアンケート調査の結果から示しており、今回の会議のために考えられるものを広く取り上げている。ただ、目標値についてはバックデータや根拠となる考え方を用意しておいた方が良くも思えない。

副委員長 目標に関しては行政も民間も考え方は同じで、PDCA サイクルを回すということ自体は変わらないと思うが、国も含めてどの施策・事業を実施してその効果がどのくらい反映され、目標に到達するのかということすべて緻密に計算し設定されているかということとそこまでできていないのが現状である。一方で、すべて計算できないまでも目標値を示すことは計画を推進する関係者の共通認識を形成するという効果もあると認識している。ただし、p46「3. 計画期間の目標」の示し方は唐突感があるとも思う。少なくともどの取組でどの数値がどの程度良くなるのかというつながりや理由づけは必要だろう。あるいは、これらの数値目標を上げるために各取組を実施するということがわかれば良いのではないか。

委員 単純に数値を示すだけであれば、それは絵に描いた餅である。数値目標の設定をするにあたって競合の自治体の目標を踏まえていたり、目標を80%とするのであれば500人のうち400人上がるというバックデータを持っていたりすれば良いが、その筋道がない状態で検討していること自体が不思議である。私たち民間企業は競合他社と競っているため、行政の目標の立て方とは温度差がある。

副委員長 数値目標のみを掲載するのではなく、各事業でどのくらい成果を上げて目標達成を目指すのかを示すと良いのではないか。

委員長 国も第2期スポーツ基本計画において数値目標を掲げているが根拠を示し切れておら

ず、まだそこまで成熟しているわけではない。とは言え、今のご指摘はとても重要と捉えている。それぞれの事業と数値目標との関連性を明確にし、取組内容を整理して示すと良いのではないか。必ずしも施策体系ときれいに連動するわけではないため、事業単位で紐づけていくということで検討してみたいか。加えて、バックデータとのつながりを明確にしていくのであれば、今回の会議で示したような目標の数は多すぎて掲載できないと考える。中間のまとめでは数値目標は掲載せず、パブコメ後に示すという方法もある。

事務局 時間的に中間のまとめには難しいので、最終的な計画を確定する段階で掲載していきたいと考えている。

委員 p46「3. 計画期間の目標」について、掲載されている「障害者のスポーツ実施率」の分母は何か。

委員 笹川スポーツ財団などがインターネット調査を実施しているケースがあるが、どのような方を対象としているかはわからない。

委員長 東京都福祉保健局の協力のもと障害のある人に対して調査を実施している。基本的には障害者手帳を保有しているかどうかを基準となっているが、障害者全体を網羅できているのかという点と厳密にはわからないだろう。

委員 p64「4. 重点施策」について、「(1) 多様な主体が楽しむスポーツの推進」に「(2) 障害者がスポーツに親しめる機会の創出」を含めていただき、(2)にはスポーツの担い手に関する施策を入れていただきたい。

委員長 東京都のスポーツ推進計画も現行計画は障害者スポーツが統合されたが、統合することで見えにくくなってしまいうきらいもあるので、現状を考えると障害者スポーツに対する支援策は表に出しつつ重視すべきだとも考えられる。

委員 p48「(2) 多様な主体が楽しむスポーツの推進」について、公益財団法人武蔵野生涯学習振興事業団は、月曜日に「障がい者のためのスポーツ広場」を実施している。そういう取組の機会を増やしていくことが実現可能性としてあるのではないか。スポーツ推進委員の全国大会に行くと、障害者スポーツの講義を聞くことがあるが、うちの市は進んでいるような印象を受ける。障害がある人とない人が一緒にできる教室もすでに開催していると思う。私もコロナ禍前は、ボッチャの教室の講師を務めていた。市の障害者向けイベントに参加すると、障害者が苦勞していることは移動である。スポーツに親しむ機会の創出といっても、ある程度のフォローは必要で、すでにある機会や取組を充実させていく視点もあると思う。東京都障害者スポーツ協会の方々も指導者資格の宣伝をした方が良いと思う。目黒区か江戸川区で、東京都障害者スポーツ協会が出前講座を実施し、区民に指導者資格の取得を広めた実績もあるので、そういう取組も武蔵野モデルを構築する上では重要と考えている。民間企業との連携実績も所々あると思う。今行っている取組を充実させていけば、多様な主体が楽しむスポーツの推進が図れると思う。

委員 p64「4. 重点施策」について、「(2) 障害者がスポーツに親しめる機会の創出」は「(1) 多様な主体が楽しむスポーツの推進」に含めた方が良いと思う。市の人口から目標値を踏まえてざっと計算すると、成人の健常者約 11 万 9 千人のうち 75%となると約 8 万 9 千人、障害者は 40%の目標で計算すると 8 千 400 人となってしまう、10:1 くらいの比率になってしまう。このように計算すると、障害者の目標が弱くみえてしまう。民間企業ではこのように考えていく。

委員 p64「4. 重点施策」について、3つ取り上げた理由と 17 施策から選ぶのかどうかを教

えていただきたい。

- 事務局 基本的に 17 施策のうちから選ぶ予定で、3 つ取り上げた理由は、17 施策のうち特に推進したい取組内容であるから。
- 委員 基本理念、基本方針があって、3 つの施策が出てきた。基本方針を踏まえると、そのⅠ・Ⅱがスポーツとの機会づくり、Ⅲが活動を支える、Ⅳが環境づくり、Ⅴが文化の内容である。であるならば、基本方針と同じように施策を 5 つ掲げてよいと思うし、今お伝えしたまとめ方でよければ 4 つでもよいと考える。
- 委員長 確かに基本方針との整合性がなさそうに見える。そういう意味では 5 つ掲げてよいかもしれない。また、4 つにまとめて代表する施策を抽出する方法もあるかもしれない。障害者スポーツに親しむ機会を出すかどうかということについては、多様な主体となってしまうと見えにくくあることが懸念されるので 1 項目として掲げておいた方がよいと思う。活動を支える視点と文化に触れていないため、その部分を追加すればよいと考えている。
- 委員 重点施策を掲載するのであれば、p47「4. 具体的な施策」の前ではないか。
- 副委員長 重点施策の掲載については、基本方針を網羅するように設定するのであれば、敢えて入れないことも考えられる。掲載することで効果的に進められるのであれば入れたほうが良いと思う。
- 委員 重点施策は p47「4. 具体的な施策」の前に移動させる。また、「(3) スポーツ施設の整備」については、予算を確保していくための措置としてご理解いただければと思う。

## (2) プールの今後のあり方について

事務局により、資料 2 に基づいて説明を行った。

- 委員 p2「イニシャルコスト、ランニングコスト」について、現状の数値は示さなくても良いのか。また、屋内プールを増やすことによる全体のコストを示さなくても良いのか。
- 事務局 7 コースから 9 コースに増やしたいと考えているが、コストは算出していない。
- 委員 ここ 2 年間、コロナ禍で屋内プールの閉館に対する市民の苦情はどのような状況か。
- 事務局 様々なご意見があった。他自治体では開けているのに、なぜ開けていないのかなど。
- 委員 個人的には寂しいが、期間限定という制限付きでの利用施設のため案 3 で良いと思う。
- 委員 小学校のプールの授業でよくあるのが、気温が高すぎて授業自体ができないケース。また、雨や曇りでも水温が低いとできないケースもある。そういう意味では、屋内プールが羨ましい。屋内プールはどれくらいの規模になるのを想定しているのか。
- 事務局 水槽は屋内プールに集約して通年利用できる常設のものとし、コースを現在の 7 コースから 9 コースに増やす予定。
- 副委員長 屋内プールのランニングコストは未算出だが、パブコメ時は示した方が良いのではないか。案 1～案 3 のうち、案 1 はコスト・リスクの観点から厳しい印象を受けている。先日見学した内部の様子を踏まえると、老朽化等の問題で今想定していないトラブルが生じる可能性も 0 ではない。市民のサービスが低下する恐れがあるのであれば、案 1 については前向きになれない。
- 委員 プールそのものに対する認識が変わってきており、慎重に検討しなければならない。案 3 が妥当な方向性と考えますが、例えば、屋外プールでは太陽の光を感じながらスポーツができるメリットもある。案 3 で進めるにあたり、様々な視点を盛り込めるとよりよく

なるのではないか。

委員長 おおよそこの会議では案3が良いという方向性で着地したと思う。また、パブコメの意見を踏まえて引き続き検討していくことができればと思う。

(3) その他

委員長 今回の会議で中間まとめの大枠部分は確認できたので、細かな修正等は委員長と副委員長とに一任していただき、パブコメに出す中間まとめを事前に発送していただくとともに、パブコメ後にまた意見交換する場を設けるということではいかがか。

(委員全員承諾)

事務局 それでは次回の会議は12月ということで閉会する。

以上